

2023年12月15日

文京区長 成澤廣修 様

日本共産党文京区議会議員団
東京都議会議員 福手ゆう子

**「白山の郷」運営法人への最大限の援助を行うことで
区内の高齢福祉サービスの提供体制を守ることを求める緊急要望書**

社会福祉法人・福音会が文京エリアでの全事業（特別養護老人ホーム白山の郷、向丘・白山・本郷の3か所の在宅サービスセンター、富坂地域包括支援センター）から2024年度末に撤退すると決定し、10月11日付で文書による「土地建物使用貸借契約解除」の申出を受け、区が10月30日に了承したと11月の区議会厚生委員会に報告されました。

福音会は開所以来、26年間の長きにわたり区民ための高齢福祉・介護事業に邁進し、区民から高い評価を受けてきました。利用者や家族から、なぜ赤字になったのか、長年、お世話になっている職員にケアを続けてほしい、あと一年半継続してサービスが受けられるのか等、不安の声が寄せられています。区としてその声に寄り添った対応が今こそ求められている時はありません。

福音会は10月11日付の区長宛ての文書で①大規模改修に伴う「白山の郷」の入居者の減員により職員の給与支払いまでの資金確保が困難であること、②改修に当たって入居者の減員、職員の配置転換に伴う大幅な介護報酬の減収により事業継続が困難であること。更には文京区からの具体的資金支援が見込めないこと、③「白山の郷」大規模改修時の東京都社会福祉促進施設（板橋区）の利用については入居者、家族への身体的、精神的、経済的負担が見込まれ、就労場所の変更から、現在就労中の「白山の郷」職員の離職の可能性が非常に大きいこと、④本郷・向丘地区における通所ニーズが大きく減少していること、⑤白山ディサービスについては、2023年11月開始の区判断のエレベーター工事に伴う動線確保のため、ディサービス営業に甚大な悪影響を及ぼすことは明白である等が原因としています。加えて、文京区で同法人が運営する施設で「すでに資金ショート」しているとも述べています。

厚生委員会で区は「今後安定的な運営が期待できないと判断し」「今後の対応方策を早急に検討していく」と報告しましたが、同法人運営の町田市や練馬区の介護施設では黒字なのに、文京区からは全事業の撤退となる背景には、区が計画する白山の郷の大規模改修時の区の支援策の不足があることは明らかです。

大規模改修時の入所・利用者や事業者への負担は、区の対応いかんで回避できるはずで、事業者の交代で更なる入所・利用者への負担をもたらすよりも、区が介護保険者としての責任を果たし、636億円に達する基金の一部を使い、財政支援を強化するなどして高齢福祉サービスの安定的提供を守りぬくべきです。

1. 区は事業者撤退を了承するのではなく、福音会が事業を継続できるよう再協議を行い、支援を一層強化すること。
2. 国に介護報酬の抜本的引き上げや介護施設への改修経費の国庫補助を求めること。
3. 東京都に特別養護老人ホーム等、介護施設の大規模改修の際の改修経費補助を抜本的に拡充させるよう求めること。